

令和元年度

「地域における青少年の国際交流推進事業」

# 「小布施サマースクール 2019」 成果報告書



長野県教育委員会

## 1. 事業概要

### (1) プログラム概要

ハーバード大学、コロンビア大学など最先端の教育を提供する大学から、様々な国籍や背景を有する大学生・大学院生（以下、「海外大学生」）を長野県小布施町・信濃町に招へいし、全国から集まった50名の高校生（うち23名は長野県内在住）を対象とした6泊7日の「小布施サマースクール 2019（以下、サマースクール）」を実施するとともに、小布施町及び信濃町の幼・小・中学生と海外大学生が交流する機会を提供した（以下、小布施町交流プログラム、信濃町交流プログラム）。

### (2) 実施内容

期間中、高校生は海外大学生から専攻する学問領域やその生き方について英語で学ぶ少人数講義（「セミナー」）や様々な分野の第一線で活躍する社会人からの講演会（「フォーラム」）、自分自身の将来像を描くワークショップ、ホームステイや地域の伝統文化体験など、グローバル・ローカル双方の視点や価値観を学ぶことができる多様な取り組みを体験した。

また、海外大学生・日本人大学生と幼・小・中学生がともに、日本文化の体験、話し合いやスポーツなどにより交流する企画を実施した。

## 2. 成果について（概要）

これらの取り組みを通して、参加高校生には意識の変容が見られ、その状況は、参与観察や事前・事後アンケートの実施により確認できた（アンケート結果については後述）。

目的に対する成果は次のとおりである。

- ・「自分自身のやりたいこと、あるべき姿を追求し、主体的な進路選択を行うことができる人材を育成する」という目的に対し、大学生や講師から、具体的な経験に基づく話を聞くことにより、自分自身のやりたいことを明確化し、主体的な進路選択を行うとする意識を高めることができた。

- ・「グローバルな視点を持ちながらも地域で活躍する人材や、日本の地域における価値観や課題を知り、愛着を持ちながらも、グローバルに活躍する人材を育成する」という目的に対し、それぞれの参加者の地域における価値観や課題を知り、理解するなかで、自分の可能性を広げたり、外国の日本人として世界に貢献したいという考えにつなげることができた。

- ・「グローバルな視点を持った上で、社会や身の回りにある課題に対する具体的な行動を起こす人材を育成する」という目的に対して、多様な価値観を肌で感じ、自分の環境を相対化したり、他者に対する想像力を持つ中で、それぞれに抱える課題を見出し、具体的な行動へ向け決意を持つことができた。

また、本事業は高校生を中心とした取り組みであるが、メンター役として参加した海外大学生及び日本人大学生についても、運営を通して人材育成に繋がる意識の向上が見られた。



### 3. 具体的な事業内容

#### (1) 計画・実施したプログラム

##### 「小布施サマースクール2019」

期間：

8月12日（月）～8月21日（水）

全体は10泊11日（高校生は6泊7日）

会場：

小布施町役場を中心とした小布施町内施設

宿泊施設：

小布施町健康福祉センター千年樹の里

参加者数：

高校生 50人（長野県内14高校23人）

大学生 39人（海外16人，国内23人）

主な内容：

- ・海外大学生によるセミナー（英語による授業）
- ・社会人講師によるフォーラム（講演会）
- ・フリーインタラクション（社会人講師との自由な対話の時間）
- ・リフレクション（1日の活動を振り返るグループ対話）
- ・ワークショップ（大学生が企画する体験的学習）

##### 「小布施町交流プログラム」

期間：8月12日（月）

会場：小布施町内施設

参加者数：幼・小・中学生22人

主な内容：

- ・海外大学生と日本人大学生による英語教室
- ・日本文化体験を通じた交流

##### 「信濃町交流プログラム」

期間：8月20日（火）

会場：信濃町立信濃町小中学校

参加者数：中学生22人

主な内容：

- ・海外大学生と日本人大学生による英語教室
- ・共同作業（料理）をしながら文化交流
- ・フリーインタラクション（将来や悩み相談をするといった自由対話時間）
- ・自由時間（スポーツなど自由交流）

#### (2) 実施経過

##### ① 1日目 8月12日（月）

東京で事前合宿を行っていた大学生は午後小布施町に到着し、翌日からのプログラムに向けての準備を行った。

到着後、小布施町交流プログラムとして、海外大学生と日本人大学生が小布施町の子供達向けの英語教室を実施した。初めて長野に来た大学生に対し、幼稚園から小学校低学年の地元の子供達が地域を題材に英語でクイズを行った。また、スイカ割りをしたり、扇子に筆で絵を描いたり海外大学生にとっては日本の夏らしい体験ができたのと同時に、参加した子供達にとってはネイティブの英語に触れる良い機会となった。

なお、今回のプログラムは対象者の裾野を広げるため、小学生や幼児を中心としたプログラムへ拡充し実施した。（中学生対象プログラムについては18日に記述）

##### ② 2日目 8月13日（火）

（サマースクール1日目）

高校生は全国から小布施町に集合し、大学生に迎えられたのち、開会式を行い、主催者である長野県教育委員会、共済者である小布施町町長が挨拶を行った。高校生代表は「まだ見ぬ未来に対する不安や希望、何が正しいか、何が間違っているかは誰かに教わるものではなく、自分で見つけるもの。この7日間で多くの人と出会って、学んで、繋がって、少しでも見つけたい。」と述べ、開会式に集まった皆がこれからの7日間に思いを馳せた。



7日間の意気込みを述べた高校生代表スピーチ

開会式後、期間中に生活を共にする「ハウス※」メンバーの仲を深める「アイスブレイク」でお互いの名前とニックネームを教え合い、相互理解を深めるためのゲームを実施することで、初対面の者同士が打ち解ける雰囲気を作ることができた。また、この日の夕食は「ウェルカムディナー」として高校生と大学生たちは、食事を取りながら一週間共に生活する仲間との結びつきを強めた。

夜はハウスごと、その日に感じたことを振り返りながら自分の抱えている不安や今後の目標などについて話す時間（以下、「リフレクション」）が実施された。この時間は、落ち着いた雰囲気の中で、高校生はどのようなことでも話すことができ、その場で大学生からの意見をもらうことができる。リフレクションはサマースクールの根幹をなすため、4日目を除き、期間中毎晩行われた。

#### ※「ハウス」とは

期間中高校生と大学生からなる行動班。多くの時間を共にし、1日の学びや個々の過去を振り返る中で年齢や出身に関係なくお互いの考えや想いを共有する。少人数だからこそ密な交流が生まれる場であり、プログラム後も続く暖かい繋がりをつくる仕組みである。



ハウスごと1日を振り返るリフレクション

### ③ 3日目 8月14日(水)

(サマースクール2日目)

午前からはセミナーがスタートした。今年度のセミナーの内容は以下の通り。

1. Animal Welfare
2. Economic growth and the environment
3. How Music is Shared
4. Flowers in Our Home
5. What's the Right Thing to Do?
6. Bioethics
7. Genogram
8. Dozing Off?
9. Games and Puzzles
10. Computer Networking
11. Being the Best You
12. Game Theory



海外大生によるセミナー

分野は多種多様で、高校生は自分の希望するセミナーを事前に選択して受講する。セミナーは、サマースクールの3日目・4日目・6日目の午前にも実施され、理系・文系に留まらないリベラルアーツの根幹となる取り組みである。

昼食後は、小布施町出身のデザイナー小島有氏を講師に迎え「iのデザイン」というワークショップが行われた。ハウスごとに街中を歩いて街中のデザインを探したり、お気に入りのロゴマークを見つけたりして、いいデザインに共通するもの考えた後に、ハウスごとにロゴマークを制作した。ハウスごとに話し合い、試行錯誤を重ねて完成したロゴからは、ハウスの個性や願いが伝わったとともに、ハウスの一体感をより一層高めたものとなった。

#### ④ 4日目 8月15日(木)

(サマースクール3日目)

午前中にセミナーを実施した後、午後には2つの企画が行われた。

1つ目は「偏愛マップ」という企画を実施した。自分の「偏愛」を気づくために、まず個人ワークで自分の好きなものを書き出し、その後ペアになった人と偏愛マップを共有することで自分の良い点に気づいたり、他者の新たな一面に気づける機会になった。個人ワークの自己分析の時間には苦戦する一面も見られたが、共有する時間ではこれまでに話したことのない相手や、海外大学生に英語で積極的に話しかけるなど、自らコミュニケーションを取る姿勢が多く見られた。

続いて海外大学生が中心となって企画した「スカベンジャーハント」を実施した。高校生と海外大学生がクイズを解きながら町を歩き、クイズが示す目的地を辿りながら町内のお店や施設を訪問することで、小布施町の名所や歴史について共に学んだ。小布施町の方々の優しさに触れつつ、また普段とは異なるメンバーで協力し、行動することでハウスを超えた関係を築く機会ともなった。



町歩きを通し、町の名所や歴史などを学んだ

この日のリフレクションはまちとしょテラソ(小布施町立図書館)において行われ、幻想的なライトの下で刺激的な3日間を振り返り、じっくり語り合う機会となった。



リフレクションの様子

#### ⑤ 5日目 8月16日(金)

(サマースクール4日目)

高校生も生活に慣れ、午前のセミナーでも楽しんでディスカッションに参加する様子が見られるようになった。積極的な姿勢は午後の企画でも多く見られた。

午後には社会の最前線でご活躍されている方の話を聴き、自分の将来に生かすための「フォーラム」が行われた。この日の講師の中村寛氏は自身が経てきた様々な経験を通して感じたことを述べ、高校生は自分自身の将来に活かそうという意気込みで熱心に聞いていた。

〈フォーラム講師〉

中村 寛 氏

スタートアップ・企業のアドバイザー、ルワンダ ICT イノベーションなど国関連のアドバイザー、経営コンサルティング事業を手掛ける



フォーラム講師に質問する高校生

〈フォーラム感想〉

「好きを突き通すためにはある程度のルールを持って物事を進める」この言葉にとっても感銘を受けました。確かに純粹に好きと言う気持ちはとても大切だけど、それだけでは何も始まらないように、事を進めていく中でもそれなりにルールを守る必要はあるはずで、あまりにも自分に素直になりすぎるとメリハリが無くなったり、自己完結が悪く出たりすると思います。

今、自分の人生の中で幼い頃から好きで慣れ親しんでいた物に近づこうとしているので、許される範囲に自制心とルールを作って楽しもうと思っています。

(参加高校生)

その後の「ビジョンクエスト」の企画では、小布施まちイノベーション HUB 事務局の大宮透氏が講師となり、フォーラム講師の中村氏もアドバイザーとして参加しながら、今までに聞いた参加者や社会人の話を受けて1年後に自分がどうなっていたいかを描いた。前日の「偏愛マップ」企画に引き続いて、自分はどのような人間で過去の経験が今の自分にどう繋がっているのか、自分について深く見つめるいい機会となった。一方で、将来どのような人間になりたいのかを実現性などを考えずに自由に夢を膨らませた楽しい時間となった。最高の1年を想定して共有したため、笑顔で自信を持って発表している高校生の姿が多く見られた。



ホームステイでは、小布施町の方々と交流した

この夕方から5日目にかけては、町内のご家庭に高校生と大学生・海外大学生が出向き、小布施の暮らしを体験するホームステイを行

った。暖かい歓迎を受けると共に、異なる世代の方々と交流できる貴重な機会となった。

⑥ 6日目 8月17日(土)

(サマースクール5日目)

ホームステイから会場に戻った5日目には「タレントショー」の企画を開催した。参加高校生や大学生が、思い思いの歌やダンス、楽器演奏など様々なパフォーマンスを披露し、新たな一面を見せ合うことができた。

午後は前日に引き続き、新たに2人のゲストをお迎えしてフォーラムを開催した。自分の将来について前向きな気持ちで講演を聞いていた高校生は、様々な経験をされている社会人の方々のお話を非常に真剣に聞いており、自分の将来が講演者のように実りあるものになるようにしようという意気込みが感じられた。

〈フォーラム講師〉

中川 敬文 氏

UDS 株式会社代表取締役社長

宮坂 学 氏

元ヤフー株式会社取締役会長

東京都参与を経て東京都副都知事

〈フォーラム感想〉

成功されている方は何かと大きな失敗をしてもそれを隠してしまいがちですが、失敗談を共有していただき、親近感が持つことができました。

成功している人はみな、元からスーパーマンではないと思うことができ、勇氣と希望が貰えました。

(参加高校生)

宮坂氏は高校生から社会人までの様々な経験を通して、夢中になれるものに出会うことの重要性を述べていました。高校生からの「その秘訣は？」という質問に対して、「今夢中になれることがない人も心配せずに、その時々で必要なことを一生懸命やっていたら出会えるはず。」と答えていました。「置かれた場所で咲きなさい。そしてそこでとことん狂い咲け」という宮坂氏の言葉は進路に悩む多くの高校生に響くものでした。

(運営大学生)

フォーラムに続いてゲストの方々とともに高校生、大学生が膝を交え、仕事観から人生観まで双方向の対話を行う「フリーインタラクション」を実施した。フォーラム講師も参加したこの企画では、自由な交流を図る中で高校生は積極的に質問し、熱心に講演者の方々の話に聞き入っていた。社会の最前線で活躍する人々との交流と通し、人生には多様な選択肢があることを知り、高校生にとって新たな視点や価値観を得る機会となった。

〈フリーインタラクションゲスト（一部）〉

大宮 透氏

小布施まちイノベーション HUB 事務局長

塩澤 耕平氏

一般社団法人ハウスホクサイ 管理人

堀込 明紀氏

小布施町教育委員会小布施町公民館

間瀬 海太氏

学校法人角川ドワンゴ学園キャリア開発部

企画開発課

小林 亮介氏

HLAB 代表理事



多様な人生観を学んだフリーインタラクション

### ⑦ 7日目 8月18日（日）

（サマースクール6日目・小布施町交流プログラム）

午前には、セミナー最終日としてまとめの授業が行われ、プレゼンテーションをするセミナーがあるなど、期間中での学びを統括する時間になった。

昼食はハウスごとに街中でとり、散策を通して、町への愛着を深める時間になった。

午後は最後のイベントであり、町の方々と交流する機会でもある、お祭りに向けた準備を行った。高校生も海外大学生も浴衣を着用して、暮れかかった街中を散策した後、小布施ミュージアム・中島千波館の庭を会場にお祭りを実施した。地域の方々の協力による屋台で小布施町の食材を味わいながら、思い思いに最後の夜を楽しんだ。ホームステイ先のご家庭や町の住民の方々にもお越しいただき、期間中最後となる交流の機会を設けた。



仲間と楽しんだ最後の夜

また、お祭りの準備の時間を活用し、海外大学生と日本人大学生、小布施町の中学生の希望者がグループになって会場周辺をともに町歩きをし、自分たちが行った場所について絵を描き、それを使って英語でスピーチするプログラムを行った。引き続き、お祭りの時間も仲良くなった大学生とともに、時間を共有してネイティブの英語に触れたり、小布施の説明をする中で、中学生にとっては自分の将来についての視野を広げる機会になった。

お祭り後、宿舎に戻り、これまで学んだことや今の思いをハウスごと遅くまで語り合い、高校生たちにとって忘れられない一日となった。

### ⑧ 8日目 8月19日（月）

（サマースクール7日目）

最終日は小布施町町長、小布施町教育長が出席して閉会式を行った。町長からの挨拶、代表の海外大学生らからのスピーチの後、7日間の様子をまとめたエンディングムービーを見て、「自分は何を感じ

じ、何を得たのか」を認識し全日程を振り返った。高校生に感想を尋ねる時間も取られ、振り返って涙する人や積極的に意見を発言する人、仲間への感謝を伝える人などが見られた。閉会式の最後には、各ハウスの大学生から高校生一人一人に修了証が贈られた。

閉会式後は、ハウスごと分かれ、思い思いの場所で昼食をとりながら、最後のリフレクションが行われた。

高校生は大学生に見送られ、感動や寂しさの涙をこぼしながら別れを惜しむ姿も見られが、帰りの電車に乗る時点では笑顔が見られ、清々しく最後を締めくくった。



7日間を振り返り、感極まる高校生も

### ⑨ 9日目 8月20日(火)

(信濃町交流プログラム)

信濃町に移動し大宮透氏をコーディネーターとして、信濃町に赴きプログラムを実施した。

午前中は信濃町総合会館において、信濃町の中学生・高校生有志を対象にして、気軽な交流の場を提供した。地元の野菜を使用した料理を共同作業を進める中で、英語やジェスチャーを使ったコミュニケーションを行い、普段の食事や家族のことを話しながら親睦を深めた。

午後は信濃町立小中学校に移動し、中学生と交流会・座談会を実施した。少人数のグループに分かれて今の悩みや将来の夢などについて話をしたり、中学生による学校案内を行ったり、自由時間ではスポーツを通して交流するなど、様々な仕掛けを通じ

て相互交流を図った。終了後は大学生、中学生ともに別れを惜しむ様子が見られた。

この信濃町のプログラムは、当初、翌21日に全校生徒を対象としていたが、県の方針で夏休みが延長されたことにより、この日に登校している生徒を対象とするプログラムに縮小し、実施した。



信濃町に移動し、中学生と交流

### ⑩ 10日目 8月21日(水)

最終日は、参加大学生や主催者である長野県教育委員会、小布施町、小布施まちイノベーション HUB等の代表者が出席し、今年度のサマースクール及び小布施町、信濃町の交流プログラムを振り返り、翌年に向け課題を整理するミーティングを宿泊施設の会議室を借りて行った。

### (3) 事後報告会の実施

#### ① 長野会場

日時：12月21日(土) 14:00~16:00

会場：長野市生涯学習センター

内容：

- ・小布施サマースクール 2019 実施概要の説明
- ・参加高校生によるスピーチ
- ・参加高校生による質疑応答
- ・海外大学生によるスピーチ
- ・参加大学生によるスピーチ

#### ② 小布施会場

日時：12月21日(土) 18:00~19:00

会場：小布施町役場講堂

内容：

- ・小布施町教育長あいさつ
- ・小布施サマースクール 2019 実施概要の

説明

- ・参加高校生によるスピーチ
- ・参加大学生によるスピーチ
- ・小布施町関係者との会食

#### 4. 事業成果について

事業成果に関しては、サマースクールへの参加高校生に対し参加前後に実施したアンケートにより計測した。

以下はアンケート結果に基づく成果に関する概要である。

##### (1) 語学力について

- ・「英語で自己紹介ができる」、「英語で外国人に話しかけることができる」の問いに対し、積極的回答（「とても思う」、以下同じ）、それぞれ 34%→48%、24%→42%と大幅に増加した。肯定的回答（「とても思う」「少し思う」の合計、以下同じ）は、それぞれ 90%、82%となり、英語の使用および外国人との対応に対して抵抗感がなくなったことがうかがえる。
- ・「将来、外国の学校に行きたい」、「外国の会社で働きたい」の問いに対しては、積極的回答が、それぞれ 26%→30%、34%→38%となり、微増であり、肯定的回答まで含めると、どちらも 76%となるが、今後、実際に行動する際には更なるフォローが必要である。

##### (2) コミュニケーション能力について

- ・「だれにでも話しかけることができる」の問い以外は、肯定的回答は事前調査・事後調査ともに9割以上で大きな変化は見られなかった。
- ・「だれにでも話しかけることができる」の問いに対し、否定的回答（「あまり思わない」「まったく思わない」の合計、以下同じ）は 32%→16%と大きく減少しており、多様な人々との集団生活の中で「話しかける」ことの必要性を理解し、実践することができた。

##### (3) 主体性・積極性について

- ・「前向きに物事を考えられる」の問いに対しては、大きな変化は見られなかったが、

「自分から進んでなんでもやる」「先を見通して、自分で計画が立てられる」の肯定的回答は、それぞれ 80%→90%、64%→74%と増加している。

- ・特に「先を見通して、自分で計画が立てられる」の問いに対して、背積極的回答は 8%→26%と増加しており、同世代の参加者から影響を受けることで、主体的にかつ計画的に行動しようとする意識が高まったと言える。

##### (4) チャレンジ精神について

- ・積極的回答の割合には差があるものの、すべての項目で向上した。
- ・特に「新しいことに挑戦したい」の問いに対する回答は、事前から高い割合であったものの肯定的回答が 100%であり、プログラムを通じて、意欲的に見出した目標に取り組もうとする意識が高まったと言える。積極的回答の割合には差があるものの、「小さな失敗をおそれない」が 24%→38%、「うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる」は 30%→46%、「新しいことに挑戦したい」は 70%→86%と向上した。

##### (5) 協調性・柔軟性について

- ・協調性・柔軟性については、肯定的な回答が増えてはいるものの、特に「誰とでも仲良くできる」の項目では、肯定的回答が 88%→86%と減少しており、否定的な回答に転じた参加者もいる。
- ・7日間という短い期間の中では、他者と十分に打ち解けることは困難であるが、多様性を受け入れ、自分とは異なる価値観を持つ人たちとの関係づくりに課題があった参加者もいる。

##### (6) 責任感・使命感について

- ・「自分がすべき役割をはっきり分かっている」の問いに対して、積極的回答が 32%→52%と大幅に増加した。
- ・同世代との関わりの中で、自分の役割を意識し、それを自ら進んで行うことは一般社会においても必要なことであり、短期間のプログラムであるがその意識が十分に高まったといえる。

### (7) 異文化理解について

- ・「交流国の文化（日常生活等）を理解している」、「交流国の歴史を理解している」との問いに積極的回答が、それぞれ28%→40%、14%→26%と増加しており、海外大学生との交流を通して理解がより深まったと考えられる。
- ・一方で、(8)の項目にある「日本の歴史を説明できる」に対し、3割以上が否定的な回答をしており、今回のプログラムを通して異文化、歴史の知識を深めるきっかけになることを期待したい。

### (8) 日本人としてのアイデンティティについて

- ・「日本の文化を説明できる」については、大きな変化はなかったが、「日本の歴史を説明することができる」、「日本人の良さを説明できる」について、それぞれ肯定的回答は、50%→60%、76%→84%となっている。
- ・上記(8)の項目とも関連づけながら、日本や各国の背景等を学ぶことができる取組についても今後、プログラムに取り入れる必要がある。

### (9) 外向き志向について

- ・「日本人として世界に貢献したい」、「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい」、「交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい」の積極的回答は、それぞれ50%→62%、80%→90%、84%→90%と増加しており、プログラムを通じての交流が、外向き志向を生むことにつながっている。
- ・特に「交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい」の肯定的回答は100%であり、今後の交流の広がり大いに期待できる結果となった。

## 5. 参加高校生の声

運営大学生が事後に高校生にとってアンケートから抜粋した。一部表現を編集している。

Q. サマースクール全体を通して自分が最も成長したと思う点はどこですか。

- 色々な人と触れて、本当の自分が見えたり、これからの人生の目標、生きていくときの指標や戻ってくる場所があるとわかった点。また、自信を得た点。
- やってみたいと思ったことをすぐに行動に移せるようになったし、人の話を聞くという点。
- 自分自身を発見したからこそ、人の意見をより受け取りやすくなったり、それに対して自分の意見を言えるようになった点。
- 人間力や自分の思いを言語化するという機会をもらえて、実際にみんなに私の意見を求められることで、一生懸命答えようと思えるようになった点。

Q. 全体を通して良かった点はどこですか。

- 色々なバックグラウンドを持った人たちと接する機会が沢山あって自分の価値観を成長させることができた点。
- もっと視野を広げることができ、もっと細かく考えることができた点。
- 人と関わる企画、自分について深く考える企画が多く、自分の成長に繋がられた点。
- いろいろな人の視点に触れることができたり、新しい分野（知らなかった分野）の学習ができた点。



全国から集った同世代から刺激を受けた参加者

## 6. 高校生の意欲向上に向けた取り組み

### (1) 高校生の学問への関心や意欲の促進

- ・大学生が実際に自分の大学で学んでいることを高校生に紹介し、大学で学ぶことや学問領域のリアリティを持ってもらうとともに、その面白さに触れ、学問への関心や意欲向上を図った。
- ・自分が希望する進路を実現するために、具体的な学習計画のデザインをサポートした。
- ・海外の大学の授業を疑似体験するセミナーを設けることで、学問の多様性や面白さに触れてもらった。
- ・理系・文系を問わず様々な分野で学んでいる大学生が運営を行い、高校生の身近なロールモデルとしての役割を果たすよう研修した。

### (2) 英語に対する不安や懸念の払拭

- ・それぞれの企画のアイスブレイクや「スカベンジャーハント」の企画は海外大学生が中心となり運営され、楽しみながら英語を使ってみたり、英語だけではないコミュニケーション方法のとり方にも触れることで、異なる背景を持った者とのコミュニケーションに対する不安を払拭するような企画を用意した。
- ・英語を用いたアウトプット企画を多く用意し、「ツール」として英語を用いるという感覚を掴んでもらえるよう工夫した。

### (3) キャリアや自己に対する理解の促進

- ・毎日の「リフレクション」を通し、高校生自身が内省する時間を設け、自己表現に欠かせない自己理解に繋げることができた。
- ・「偏愛マップ」、「ビジョンクエスト」などの企画を通じて、自分自身に対する理解を深める時間を多く用意した。
- ・様々な分野で活躍される社会人の講演（フォーラム）やより近い距離で社会人の話を聞く「フリーインタラクション」を企画し、多様なキャリアに触れられる場が提供できた。

### (4) 主体性の促進

- ・プログラム中に行われた企画は、全て参加者が主体的に取り組めるような双方向なも

のとした。セミナーでは海外大学生と授業内容に関して話し合いができるように工夫されており、リフレクションも高校生が自己開示しやすいような環境づくりを運営大学生が心がけた。

### (5) 海外留学のハードルを下げる

- ・セミナーを実施し、海外大学生を身近に感じられる機会を提供した。
- ・海外大学生のみならず、留学経験のある国内大学生が身近な前例として、自らの留学体験などを紹介した。

## 7. 成果のまとめと今後の課題

### (1) 成果（サマースクールでの参与観察及び事前・事後アンケートの結果から）

- ① 日を追うごとに、積極的に他の参加者やメンター役の大学生に話しかける姿やフォーラムの際に躊躇せずに質問をする姿が見られた。また、セミナーの際に英語で質問したり意見を述べたり、英語でのコミュニケーションに対する意識の向上が見られた。そのうえで、大学生や講師から、具体的な経験に基づく進路選択の話聞くことにより、自分自身のやりたいことを明確化し、主体的な進路選択を行おうとする意識を高めることができた。また、海外の大学への進学意識・留学に対する意識も高まった。
- ② フォーラム講師の講演を聞くことや、期間中のリフレクションの時間で、海外の大学生も含め、お互いの日々の生活や進路についての考えを話し合い、伝え合うことにより、それぞれの参加者の地域における価値観や課題を知ることができた。そのうえで、自分の可能性を広げたり、外国の日本人として世界に貢献したいという考えに育成につながった。
- ③ 異なる人種・国籍・居住地・学校など、それぞれに異なる背景をもつ高校生、大学生及び社会人講師と関わりをもつ中で、多様な価値観を肌で感じ、自分の環境を相対化したり、他者に対する想像力を持つ大切さを参加者が実

感することができた。そのうえで、高校生が多様な他者との交流の中から、それぞれに抱える課題を見出すことができ、閉会式では高校生一人ひとりが「自分がこれから取り組むこと」をスピーチすることで、具体的な行動へ向け決意を持つことができた。

- ④ 本プログラムは高校生の学びをメインとしたものではあるが、参加した大学生についても、運営を通じて人間的に成長した姿が見られ、指導者としての自覚に基づくロールモデルとしての役割を果たそうとする意識の向上が見られた。
- ⑤ 同様の取り組みを継続して 2013 年から実施してきた結果、小布施町や周辺地域から参加する高校生が増加しており、地域への還元ができています。

## (2) 課題及び改善に向けた方策

### ① 高校生に対する効果の継続的モニタリング

サマースクールにより「英語力の向上」や国際交流への心理的障壁が下がる」という短期的な効果は見込まれた。一方で、教育プログラムとしては、今後の高校生の進路も継続的にモニタリングし、本プログラムの間接的なインパクトも定量的に把握する必要がある。参加者が集う場として小布施町を活用しながら、定期的に参加者が戻ってくる環境を整備し、進路や留学に関する活動などをモニタリングしながら、支援を継続したい。

### ② 参加大学生の属性の多様化

今年度は首都圏の大学に所属する大学生が大半を占め、長野県から参加した高校生にとっては属性や経験が似ている大学生を少し見つけにくい面があった。多様性を確保しながら、長野県出身や長野県内の大学に通っている大学生の人数を増やすことで、長野県の高校生にとって運営大学生が身近な存在に感じさせる必要がある。

### ③ より幅広い県内高校への広報活動

参加生徒が各校で、体験したことを発表する機会は得ているが、参加をしたことによる自分の変容やその後のアクション、また①のモニタリングの場で、参加者同士の連携活動などを促す取り組みや、その成果を伝える場面が事後報告会だけでは不十分である。長野県教育委員会が主催する「野県高校生『私のプロジェクト』発表大会」などの発表の機会へ積極的に参加しながら、全県の高校生に向けて広報活動を行うことが効果的である。

以上



〈主催〉

長野県教育委員会

〈共催〉

長野県上高井郡小布施町  
一般社団法人 HLAB

小布施サマースクール2019（「信州グローバルセミナー」事業）  
参加者の意識に関するアンケート

以下の項目について、「とても思う」、「少し思う」、「あまり思わない」、「全く思わない」の4段階で、参加者への事前・事後のアンケートを行うこと。  
また、事後アンケートについては、事業終了から一定期間経過した後も改めてアンケートをする等成果の把握に努めること。

要素Ⅰ-①語学力、要素Ⅰ-②コミュニケーション能力

要素Ⅱ-①主体性・積極性、要素Ⅱ-②チャレンジ精神、要素Ⅱ-③協調性・柔軟性、要素Ⅱ-④責任感・使命感

要素Ⅲ-①異文化理解、要素Ⅲ-②日本人としてのアイデンティティ

要素	質問番号	質問項目	回答	事前	事後	変化	
要素Ⅰ	1	英語で自己紹介ができる	とても思う	34%	48%	↑	○
			少し思う	50%	42%	↓	
			あまり思わない	14%	10%	↓	
			まったく思わない	2%	0%	↓	
	2	外国の人に英語で話しかけることができる	とても思う	24%	42%	↑	○
			少し思う	40%	40%	→	
			あまり思わない	34%	18%	↓	○
			まったく思わない	2%	0%	↓	
	3	将来外国の学校に行きたい	とても思う	26%	30%	↑	
			少し思う	42%	46%	↑	
			あまり思わない	26%	24%	↓	
			まったく思わない	6%	0%	↓	
	4	将来外国の会社ではたらきたい	とても思う	34%	38%	↑	
			少し思う	38%	38%	→	
			あまり思わない	24%	22%	↓	
			まったく思わない	4%	2%	↓	
②コミュニケーション能力	5	だれにでも話しかけることができる	とても思う	22%	32%	↑	○
			少し思う	46%	52%	↑	
			あまり思わない	30%	16%	↓	○
			まったく思わない	2%	0%	↓	
	6	人の話をきちんと聞くことができる	とても思う	68%	74%	↑	
			少し思う	26%	22%	↓	
			あまり思わない	6%	4%	↓	
			まったく思わない	0%	0%	→	
7	人のために何かをしてあげるのが好きだ	とても思う	60%	76%	↑	○	
		少し思う	38%	16%	↓	○	
		あまり思わない	2%	8%	↑		
		まったく思わない	0%	0%	→		
8	人の心の痛みがわかる	とても思う	50%	60%	↑	○	
		少し思う	44%	36%	↓		
		あまり思わない	6%	4%	↓		
		まったく思わない	0%	0%	→		
要素Ⅱ	9	自分からすすんで何でもやる	とても思う	22%	36%	↑	○
			少し思う	58%	54%	↓	
			あまり思わない	18%	10%	↓	
			まったく思わない	2%	0%	↓	
	10	前むきに、物事を考えられる	とても思う	38%	40%	↑	
			少し思う	46%	44%	↓	
			あまり思わない	12%	16%	↑	
			まったく思わない	4%	0%	↓	
	11	先を見通して、自分で計画が立てられる	とても思う	8%	26%	↑	○
			少し思う	56%	50%	↓	
			あまり思わない	32%	22%	↓	○
			まったく思わない	4%	2%	↓	
12	小さな失敗をおそれない	とても思う	24%	38%	↑	○	
		少し思う	44%	50%	↑		
		あまり思わない	28%	12%	↓	○	
		まったく思わない	4%	0%	↓		
13	うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる	とても思う	30%	46%	↑	○	
		少し思う	56%	46%	↓	○	
		あまり思わない	12%	8%	↓		
		まったく思わない	2%	0%	↓		
14	新しいことに挑戦したい	とても思う	70%	86%	↑	○	
		少し思う	28%	14%	↓	○	
		あまり思わない	2%	0%	↓		
		まったく思わない	0%	0%	→		

要素II	③協調性・柔軟性	15	だれとでも仲よくできる	とても思う	42%	52%	↑	○
				少し思う	46%	30%	↓	○
				あまり思わない	12%	14%	↑	
				まったく思わない	0%	4%	↑	
		16	その場にふさわしい行動ができる	とても思う	48%	58%	↑	○
				少し思う	48%	36%	↓	○
				あまり思わない	4%	6%	↑	
				まったく思わない	0%	0%	→	
		17	自分勝手なわがままを言わない	とても思う	50%	38%	↓	○
	少し思う			38%	50%	↑	○	
	あまり思わない			12%	10%	↓		
	まったく思わない			0%	2%	↑		
	④責任感・使命感	18	いやがらずに、よく働く	とても思う	42%	42%	→	
				少し思う	46%	50%	↑	
				あまり思わない	10%	8%	↓	
				まったく思わない	2%	0%	↓	
		19	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	とても思う	68%	70%	↑	
				少し思う	32%	30%	↓	
				あまり思わない	0%	0%	→	
				まったく思わない	0%	0%	→	
20		自分がすべき役割をはっきりわかっている	とても思う	32%	52%	↑	○	
			少し思う	54%	40%	↓	○	
			あまり思わない	14%	8%	↓		
	まったく思わない		0%	0%	→			
要素III	①異文化理解	21	交流国の文化(日常生活等)を理解している	とても思う	28%	40%	↑	○
				少し思う	42%	48%	↑	○
				あまり思わない	30%	10%	↓	○
				まったく思わない	0%	2%	↑	
		22	交流国の歴史を理解している	とても思う	14%	26%	↑	○
				少し思う	40%	36%	↓	○
				あまり思わない	42%	32%	↓	○
				まったく思わない	4%	6%	↑	
		23	初めての環境に自分からなじもうと努力する	とても思う	54%	66%	↑	○
	少し思う			40%	24%	↓	○	
	あまり思わない			6%	10%	↑		
	まったく思わない			0%	0%	→		
	②日本人としてのアイデンティティ	24	日本の文化(日常生活等)を説明することができる	とても思う	28%	34%	↑	
				少し思う	56%	54%	↓	
				あまり思わない	16%	12%	↓	
まったく思わない				0%	0%	→		
25		日本の歴史を説明することができる	とても思う	14%	28%	↑	○	
			少し思う	44%	36%	↓	○	
	あまり思わない		38%	28%	↓	○		
26	日本人としての良さを説明できる	とても思う	40%	50%	↑	○		
		少し思う	46%	46%	→			
		あまり思わない	12%	4%	↓			
		まったく思わない	2%	0%	↓			
外向き志向	27	日本人として世界に貢献したい	とても思う	50%	62%	↑	○	
			少し思う	40%	34%	↓		
			あまり思わない	10%	2%	↓		
			まったく思わない	0%	2%	↑		
	28	外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい	とても思う	80%	90%	↑	○	
			少し思う	20%	8%	↓	○	
			あまり思わない	0%	2%	↑		
			まったく思わない	0%	0%	→		
	29	交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい	とても思う	84%	90%	↑		
			少し思う	14%	10%	↓		
			あまり思わない	2%	0%	↓		
			まったく思わない	0%	0%	→		